

2019年8月27日
井関農機株式会社

2019年12月期 第2四半期 決算説明会
質疑応答要旨

**(問1)国内の業界生産出荷金額が4~6月で大きく伸長しているのに対して、
当社トラクタは減少している要因は？**

(回答)

- ・秋商品関係は消費増税を見込んだ前寄せ傾向の生産出荷となっている。
一方当社実売は、北海道を中心に需要が高い大型トラクタで開発遅れがあり
上期は動きが鈍かったが、6月以降徐々に回復している。
全農のトラクター一括共同購入については、現時点で1,200台程度出荷されている
と想定しており、業界出荷金額全体の底上げに繋がっている。
業界金額は出荷(卸)ベースであり、当然実売(販売)よりは先行する。そうした
中で、消費増税前の駆け込み需要に加え、全農一括共同購入もあり、更に先
行が進んでいる。現状では出荷と実売でゆがみが生じているが、今後実売が
進んでいくことにより解消されていくものとする。

**(問2)業績予想について、2Qが季節性ではピークで下期下がってくる傾向と考
えるが、下期のウエイトが高く、どのように達成するか？国内は大型機械
の新製品効果を見込んでいるか？**

(回答)

- ・季節性では2Qは確かに高いが、3Qも高く、年によって異なっている。
大型機械は6月以降回復してきている。大型機械は採算的にもプラスに寄与す
る面が強く、下期業績に貢献すると考えている。収益的にも下期のウエイトが高
いが、達成可能と見ている。



(問3) 海外各地域の下期をどう見ているか？北米は売上が伸びているが、米中貿易摩擦の影響はあるか？

(回答)

・北米は色々な指標がここ2~3年と足許で変わってきている。例えば、住宅着工件数は3年続けて前年を上回って推移していたが、ここ数ヶ月は前年を下回っている。右肩上がりから横ばいになってきている。この中で、コンパクトクラスは高い水準を維持しており、先行きには注視が必要と考えているが、現状好調を維持している。米中貿易摩擦の関係では、主力のコンパクトトラクタ関係では影響は見られない。

欧州は天候要因等があるが、下期投入する新商品に期待している。

韓国は田植機は春に全て売り切り、秋物のコンバインは殆ど出荷済み。足許8月の出荷も予定通り出荷する。日韓関係の影響については、とりあえず現状は大きなインパクトは無いが、今後注視していきたい。

タイは穀物価格の問題等もあり、マーケットは大きく伸びてきていない。その中で競争が激化している。ただしミャンマーは楽しみな状況になってきている。

中国の回復にはまだ時間がかかりそう。当社はハイエンドに近い高効率の製品や先端技術を搭載した製品等を投入し始めており、大きな反響を呼んでいる。

これら新商品で差別化を図っていく。

以上

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2019年12月期第2四半期決算説明会開催日(2019年8月9日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。